

## 令和5年度第3回陸前高田市津波避難計画策定アドバイザー会議 議事要旨

- 開催日時 令和6年3月28日（木）午後2時00分から午後5時30分まで
- 開催場所 陸前高田市消防防災センター2階 防災研修室
- 出席委員 牛山素行委員長、加藤孝明委員、関谷直也委員  
中村吉雄委員、福留邦洋委員
- 配布資料  
アドバイザー会議におけるこれまでの意見等の要旨  
陸前高田市津波避難計画策定に向けた基本的方針（骨子案）  
参考資料 避難困難地域の検討（歩行速度の設定）  
自動車で安全かつ確実に避難できる方策に係る資料
- 経過概要
  - 1 事務局より、これまでのアドバイザー会議の意見等の要旨の報告を行った。
  - 2 協議ア「陸前高田市津波避難計画策定に向けた基本的方針案」について事務局から説明を行い、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。
    - ・ 観光客等が大勢滞在する、高田松原海水浴場、道の駅等で被災した場合、津波到達時刻までに、安全な場所への避難が可能か検証し、間に合わない可能性があるのであれば、対策まで検討する必要がある。市民だけでなく、本市に滞在する全ての人が安全に避難できるような考え方で整理する。
    - ・ 避難困難地域の有無は、地震発生後の避難開始時間、避難速度等を設定したときに、避難場所まで到達できるかを基準に決定するため、シミュレーションを行うなかで、実態に即した条件で実際に逃げ切れるのかというところを、よりリアリティを追求した結果から確認する。  
また、この地域の実情に応じて、課題があるのならば、その理由を明確にして、どのように解決していくかの議論を行う。
    - ・ 避難困難地域がある場合に、その規模や場所を明らかにして、津波避難タワーのような施設が必要なのか、この会議の中で見える化して、今後の推進計画を作る前段のところまでの段取りを考える。
    - ・ 海水浴場も含めて、海岸に近い集客施設からの車避難の検討は必要となる。その際には通過交通との干渉についても考慮する必要がある。また、車避難を認める場合、避難途中で車が滞留すれば、交通渋滞が発生してしまうリスクを伴うため、避難経路等を見ながらゴールとなる避難先を決める必要がある。
    - ・ 地震の影響により道路が通行出来なくなる事もあり得るが、どこまでを考慮してシミュレーションを実施していくのか議論が必要である。
  - 3 協議イ「津波避難シミュレーションの実施」について、事務局から説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は、次のとおりである。
    - ・ 歩行者避難のシミュレーションと、自動車避難のシミュレーションを独立で分けて作るか、相互の干渉を考慮した複合型のものを作るか、そこが非常に大きな分かれ道であるが、両方あ

った方が、非常にわかりやすい。

- ・ 避難開始時間について、昼間に地震が発生した場合は、すぐに避難開始という想定が良いが、夜間では、道の駅や沿岸部に近い所に人が少なく、家で就寝していることを想定して長めにするなど、計算する場所や条件によって、弾力性をもって考えた方が良い。
  - ・ 道の駅の避難開始時間は短くて良いが、車を駐車場から出すところは、しっかりとシミュレーションが必要である。
  - ・ 用事後避難について、全員が直後避難であるとか、あるいは比較の意味で半分くらいの人が直後避難であったらどうかなど、計算する場所にもよるので、あまり複雑化しない方が良い。
  - ・ シミュレーションを繰り返すことで、車避難をした際のゴールとなる駐車場所、避難経路のボトルネック、避難可能な最大の台数、危険な目に遭う人が出てくる台数などの数字が出てくる。
  - ・ 気仙川や川原川などの橋に通行障害が発生した時に、高い所へ避難する経路は限られるし、知らなければ逃げることはできない。最悪のパターンでやった時に、どの経路を通ることでのくらい時間的に許容されるのかを、シミュレーションで見えるようにする必要がある。
  - ・ 標準モデルでシミュレーションをやってみて、その後に悪条件を追加していくイメージで進める。
- 4 協議ウ「個別避難計画の作成」について、担当課より説明が行われ、委員による意見交換が行われた。主な意見は次のとおりである。
- ・ 希望していない対象者の掘り起こしが課題ではあるが、ケアマネージャーを通じて情報整理することで、情報収集は可能である。
- 5 その他、委員からの主な意見は次のとおりである。
- ・ 復興祈念公園の駐車場を含めて、小さな子どもや高齢者を連れている人は車でないと避難は困難であるし、海水浴場の奥で泳いでいる人、この二つは避難困難になる。
  - ・ 海水浴は季節が限定されるが、復興祈念公園はオールシーズンなので、避難困難となる人たちの最後の砦が必要になる。
  - ・ 漁村集落の問題、高田の問題、道の駅付近の問題は、それぞれ切り分けて考える。
  - ・ 避難困難で最後取り残される人たちのことを考えると、特に道の駅付近では、避難施設の建設も視野に入れ、検討していく必要もあるのではないかな。
  - ・ 災害公営住宅の垂直避難は、構造的な観点からも、避難として認めてもよいのではないかな。
- 6 事務局から、今後のスケジュールについて説明が行われた。また、第4回会議日程について、令和6年夏頃（6月最終週から7月第1週）に実施することとし、改めて日程調整を行うことで決定した。